

## 1 自己評価

## I 評価結果

## ○ (別紙) 令和元年度県立玉野高等学校評価書

## ◆ 参考資料

- ・ 令和元年度学校自己評価のためのアンケート結果及び分析

## II 分析・改善方策

## &lt;全体分析&gt;

学校自己評価アンケートにおける「学校生活は全体的には、充実し、満足している」という項目は90%を超え、ここ数年で最も評価値が高い。また、保護者対象の「子どもを玉野高校に行かせたことに満足している」という項目は95%と非常に高く、保護者は好意的に学校を評価していただいている結果が得られた。また、ボランティア参加に関する充実感を問う項目も数値が高い。地域での社会貢献活動の機会は多く、多くの生徒が参加し、「参加して良かった」と感じている結果と考える。

授業力向上に向けた取組である「チーム玉野」を通して、相互授業参観や公開授業等を行い、授業改善に取り組んだことがアンケート結果に現れている。一方で、生徒、保護者ともに「家庭学習」に関する数値が低い。進路指導課が中心となり、職業ガイダンスや進路講演会などを通じて学習に対する意識付けを行っているが、特に2年生に高い意識を持たせるのが難しい現状がある。

働き方改革により、会議の精選等が積極的に行われ、教員への項目である「過剰な勤務負担を感じていない」は、前年度比20%数値は上がったが、情報共有する場の減少から、教員間のコミュニケーションの項目の数値の低下に繋がったことが考えられる。

## &lt;各重点における分析&gt;

各重点項目の分析は次のとおりである。

なお、(1)～(3)は、学校評価書別紙の学校経営目標番号を示している。

- (1) HR委員主導による「先言後礼」の徹底や、生徒会主導の挨拶運動、各担任による教室環境整備等が、落ち着いた生活習慣に結びつき、安心安全なクラス形成の柱になっていると考えられる。また、学校祭を中心に、生徒が学校行事に主体的に取り組んでおり、生徒一人ひとりが、高い満足感を得られている。さらに、総合的な学習(探究)でプレゼンテーションやポスター発表の場を設け、生徒の表現力向上に繋がっている。
- (2) 家庭学習時間の定着を本年度の学校経営目標の中心に掲げ、進路指導課を中心に、進路意識を持ち学習意欲に繋がるよう働きかけたが、家庭学習習慣の定着には繋がっていない現状がある。また、今年度で4年目となる教員の「チーム玉高」による授業力向上にも継続して取り組んだ。来年度以降も引き続き、チーム毎の課題解決によって魅力ある授業を構築し、その魅力ある授業を生徒の学習意欲向上に繋げていく。
- (3) 近隣の小・中学校、自治体などの依頼に学年、部活動、理系選抜など、様々な形態で応えた。ボランティア活動には多くの生徒が参加し、達成感が得られたという項目では高い数値が得られた。また、中学生との合同練習会を実施する部活動も増え、来年度以降も地域との連携を密に取っていく。さらに今年度、情報発信ツールとして、Facebook、Instagram、Twitterを開設した。玉高通信やPTA通信を含め、定期的に情報を発信するとともに、開かれた学校づくりの一助とした。

## 2 学校関係者評価委員名

大塚 雅嗣 (学校評議員)	山崎 裕正 (学校評議員)	田中 久美 (学校評議員)
豊田 啓介 (学校評議員)	五老海正登 (学校評議員)	藤原 直之 (玉野市立宇野中学校長)
水田 忠和 (同窓会会長)	福本 敏子 (PTA副会長)	

## 別添1（様式）

### 3 学校関係者評価

#### <全般的な評価の概要>

- 学校自己評価について、今年度の取組についての評価は適正と判断された。あわせて今後の学校経営について、提言・意見が出された。

#### <学校の現状・生徒の実態についての提言・意見>

- 生徒の充実感、保護者の満足感が高いことは学校の取組の成果が現れている。
- 玉野高校の取組はすばらしいが、なぜ志望調査とリンクしないのか。分析が必要である。
- 文化祭、体育祭では生徒はとても良い表情で頑張っている。
- 自主的な学習をすることが大切であり、そのための工夫が必要である。

#### <普通科高校のあり方・教員の取組についての提言・意見>

- 公開授業では、生徒の興味関心を呼び起こす工夫をした教科横断的なものもあり、とても良い授業であった。
- チーム玉野で行っている授業を中学校で出向いて授業してもよいのではないかと。
- 普通科改革が求められているが、どのように改革していくのか。
- 進路実現は長期的に見ても大切である。進路実現のために、日頃から経験したことを言語化することが大切である。
- 授業公開や話し合いなどを通して、中学校との連携があってもよいのではないかと。

### 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

#### (1) 「熱く 温かく いきいきと」の実践

- ① 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上  
(挨拶・返事、整理整頓、学校環境の整備、健康管理)
- ② 自他の良さを認め、互いに協力し合える温かい言葉遣いや行動  
(「ありがとう」のあふれる学校、人権の尊重)
- ③ 主体的行動による、自己研鑽  
(学校行事、生徒会活動、部活動)

#### (2) 学力向上と進路実現

- ① 知識・技能の生成・習得  
(知識・技能の構造化 統合化を促す)
- ② 思考力・判断力・表現力を育む活動  
(探求的な学習課題の設定、AL型授業の視点に基づいた授業実践)
- ③ 学びに向かう力・人間性の涵養  
(ポートフォリオ作成、プレゼン力、傾聴力等コミュニケーション能力育成)

#### (3) キャリア教育の推進と地域等との連携

- ① 生徒が主体的に参画する社会貢献活動の実施  
(瀬戸内芸術祭への参加、SDGs、インターンシップ、ボランティア活動等)
- ② 幼保小中学校や各種団体、同窓生との教育連携  
(出前講座、職業ガイダンス、地域資源の活用等)
- ③ 様々なツールによる積極的な情報発信